

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月14日
【事業年度】	第26期(自平成21年2月1日至平成22年1月31日)
【会社名】	株式会社クリムゾン
【英訳名】	CRYMSON Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 姚 健
【本店の所在の場所】	東京都墨田区亀沢四丁目17番17号 (同所は登記上の本店所在地で実際の業務は東京都墨田区錦糸三丁目2番1号で行っております。)
【電話番号】	03(5637)0505
【事務連絡者氏名】	専務取締役 兼 管理本部長 児玉 俊明
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区錦糸三丁目2番1号 アルカイースト16階(本社)
【電話番号】	03(5637)0505
【事務連絡者氏名】	専務取締役 兼 管理本部長 児玉 俊明
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1【有価証券報告書の訂正報告書提出の理由】

平成22年4月28日に提出いたしました第26期（自平成21年2月1日至平成22年1月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

3【訂正箇所】

訂正箇所は__線で示しております。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

（訂正前）

（1）～（7）（省略）

（8）重要事象等についての分析と対応策

当事業年度は、日本経済の急激な景気悪化を受けた一般消費者の生活防衛意識や節約志向による買い控えなど個人消費が低迷する厳しい環境の中で推移しました。その結果、売上高は7,415,597千円（前期比33.2%減）となり、営業損失540,733千円（前期は営業利益387,695千円）、経常損失514,470千円（前期は経常利益381,079千円）、当期純損失889,975千円（前期は当期純利益124,583千円）を計上したことにより、経営に重要な影響を及ぼす事象（重要事象等）が存在しております。その対応策につきましては、「4 事業等のリスク（8）重要事象等について」をご参照ください。

（訂正後）

（1）～（7）（省略）

（8）重要事象等についての分析と対応策

当事業年度は、日本経済の急激な景気悪化を受けた一般消費者の生活防衛意識や節約志向による買い控えなど個人消費が低迷する厳しい環境の中で推移しました。その結果、売上高は7,415,597千円（前期比33.2%減）となり、営業損失540,733千円（前期は営業利益387,695千円）、経常損失514,470千円（前期は経常利益381,079千円）、当期純損失889,975千円（前期は当期純利益124,583千円）を計上したことにより、経営に重要な影響を及ぼす事象（重要事象等）が存在しております。当該状況を解消すべく、当社では、営業活動において新ブランド展開によるマーケットシェアの回復や新規取引先の開拓、直営店舗の収益性の見直しなどを行っております。一方、販売費及び一般管理費につきましては、不採算店舗の閉鎖や物流センターの規模縮小、業務改革による組織の再編成等を行うことにより、経費削減に努めております。これらの施策を推進することで経営基盤の強化を図り、企業経営の安定化に努めてまいります。当社では、上記施策により、経営環境が正常化することで、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況についても解消されるものと考えております。